

オディッセイア

10年に及ぶトロイにとの戦いの後、ポセイドンの怒りに触れたオディッセイウスがカリュプソの島に7年間留められた後に許され、苦難のすえ祖国イタケに帰国。留守中、妻に結婚を迫り、オディッセイウスの家財を食い潰す求婚者たちを女神アテネの助けを受け、成人した息子テレマコスや忠臣とともに討伐する冒険譚。

物語は24巻からなり、

- 第1巻～第4巻は オディッセイウスは帰国を許され、息子テレマコスは父の消息を訊ねて旅に出る話。
第5巻～第8巻は オッディッセイウスがカリュプソを出て、遭難に遭いながらもパイエスケの国にたどり着くまでの話。
第9巻～第12巻は トロイとの戦の後、カリュプソに足止めされるまでのオディッセイウスの放浪の話。
第13巻～第24巻は オディッセイウスが帰国し、妻に言い寄り、家財を食い潰す求婚者たちを討伐する話。

- 第1巻 ポセイドンが不在の時にオリンポスの神々が集まり、女神アテネの進言により、ポセイドンの怒りをかって故国イタケに帰れず、カリュプソに足止めされているオディッセイウスの帰国を決議する。
イタケではオディッセイウスは非業の死を遂げたと言って、オッディッセイウスの妻ペネロペイアのもとに多くの求婚者が集まり、飲み食いしてオディッセイウスの家財を食い潰している。
息子テレマコスの下に女神アテネが身を変えて現れ、父の消息を訊ねて出かけることを勧める。
- 第2巻 テレマコスはイタケの領民を集め、父が死んだと言って家財を食い潰している求婚者たちの横暴と悪行ぶりを訴えるが、集会は効果なく終わる。テレマコスは親友メントルに変身した女神アテネと共に父の消息を訊ねてピュロスに船出する。
- 第3巻 ピュロスに着いたテレマコスは、オディッセイウスとトロイで共に戦った領主ネストルに逢い、父の消息を尋ねる。ネストルはテレマコスを歓待し、共に戦った様子を話して聞かせるが、オディッセイウスの消息は知らないと言い、後まで残ったスバルテの領主メネラオスを訊ねるように言う。テレマコスはネストルの子ペイシステラトスと共にスバルテに出発する。
- 第4巻 テレマコス一行がスバルテのケダイモンに着いた時息子と娘の婚礼の最中で、メネラオスはテレマコスの素性も聞かずに婚礼の席に着かせる。メネラオスはトロイの戦について話始める。王妃ヘレンがテレマコスがオディッセイウスに似ていると言った事からテレマコスの素性がわかる。メネラオスはエジプトに漂流した時海の翁プロテウスからアカイア族の将の消息を聞き、ディッセイウスについてはカリュプソに足止めされているのを見たと語る。
イタケでは求婚者たちがテレマコスの船出を知りて怒り、彼を殺そうと謀議、それを知った母ペネロペイアは食事が喉を通らぬほど悲しむ。
- 第5巻 オディッセイウスを帰国させることをゼウスの子ヘルメイアスがカリュプソに伝える。オディッセイウスと結婚を迫っていたカリュプソはやむなく従う。ヘルメイアスは筏で海を越えるように言い渡す。オディッセイウスは快速船でも海を越えるのは難しいのにと言うものの、筏を作り、筏で海に乗り出す。
船出して18日目、オディッセイウスはポセイドンに見つかり、筏は破壊されるがパイエスケ人のスクリエ島にたどり着く。
- 第6巻 女神アテネはパイエスケの王アルキノオスの屋敷に行き、王の娘ナウシカアの姿に身を変えて、ナウシカアの枕元に立ち、夜が明けたら洗濯に出かけるように言う。洗濯場の近くで眠っていたオディッセイウスはアテネの策で目を覚まし、洗濯に来ていたナウシカアに救いを求める。ナウシカアは食事と着物を与え、町に連れて帰るが、人目を避けるため町の入口でとどまる様、オディッセイウスに言う。

- 第7巻 女神アテネはオディッセイウスを王宮に案内する。オディッセイウスは王アルキノオスと対面、7年間カリュプソに留め置かれ、8年目に帰国を許されたが、ポセイドンに妨げられこの島に辿り着いたことを語り、故国の土が踏めるよう支援を嘆願する。アルキノオスは國に送ることを約束する。
(この時点では、客人がイタケの王オディッセイウスであることをアルキノオスは知らない)
- 第8巻 アルキノオスは客人をパイエスケ人の集会に案内。女神アテネはパイオスケの領主たちを集め、客人を國許に送ること、餞別を贈ることを決議。客のために宴会が設けられ、席上吟遊詩人が詠うトロイの戦の話にオディッセイウスは涙を流す。アルキノオスは歌を止めさせ、競技を始めさせる。若いパイオスケ人がオディッセイウスを煽り、槍投げ等の競技に加わらせるが、その見事な腕に賞賛を浴びる。競技後、再びトロイの戦の歌の続きを聞いて涙を流すオディッセイウスを見て、アキノウォスは客の素性を尋ねる。
- 第9巻 アルキノオスの問い合わせに尾でキッセイウスは自分の素性を明らかにし、トロイからの帰國の一部始終を語り始める。始めにキコネス族の町に入り、攻め落としたこと。ロトパコイ(蓮の実食い)族の國に上陸して、部下たちが蓮の実を食べ、食べた者たちは帰国がどうでも良くなったこと。野蛮非道なキュクロス族の國で片目の巨人キュクプロスに多く部下が食われたこと。その片目を潰して辛くも脱出したことを語る。
- 第10巻 風の神アイオロスの島に着き、厚いもてなしを受ける。旅立ちを助けるためアイオロスが風を封じ込めていた袋を部下が金銀が入っていると邪推して開けたため、嵐となりアイオロス島に逆戻りしたこと。次にキュクロス同様野蛮なライトリュゴネス族の國について多くの部下を失う。ここで部下を2組に分け、オディッセイアと部下の将エウリュコスが夫々指揮。エウリュコスの一行は魔法を使うキルケの石の館に入り、豚に変えられ閉じ込められる等々の危機に遭うが、ヘルメイアスに助けられ、ここで1年を過ごす。キルケはオディッセイウスに冥府に行って、テレイシアスの靈からイタケに関する予言を聞くべく、冥王(ハデス)並びにペルセポネイアの館に行くよう指示する。
- 第11巻 冥府でオディッセイウスは、始めに部下であったエルベルノの靈に会う。続いてテーバイ人のテレイシアスが帰国のことや帰国後のことを予言する。続いて出征のときは生きていた母アンティクレイアの靈から、妻が屋敷に留まって辛い日々を送っていること、息子テレマコスが領地を管理していること、父は田舎に引っ込んだこと等、留守宅の様子を聞く。
- 第12巻 オディッセイウスはキルケのもとに戻って、彼女の予言に従い、魔女セイロンや怪物スキレに会う。さまよう岩や魔の淵カリュブデスを通り抜けトリキエの島に着く。ここで飢えた部下たちが太陽神の牛を殺して食べたため、嵐に遭い、部下たちは死に、オディッセイウス1人がカリュプソの島に辿り着く。ここでオディッセイウスの漂流の話が終わる。

- 第13巻 オディッセイウスは沢山の財宝を貰い、パイオスケの水夫に送ってもらい、イタケに帰り着く。水夫たちはオディッセイウスの命に従い、財宝を陸揚げ、洞窟に隠した後、急いで故国パイオスケに帰る。オディッセイウスが1人残され思案しているところに女神アテネが現れ、ペロネイアに言い寄る求婚者たちを討つ手立てを授ける。アテネはオディッセイアスを年老いた、貧しい身なりの乞食に変え、次にテレマコスを迎えてラダケイモンに向かった。
- 第14巻 オディッセイウスはアテネの指示に従い、彼の部下の中でも最も忠実だった豚飼のエウマイオスを訪ねる。エウマイオスはこの乞食がオディッセイウスとは気が付かない。エウマイオスは乞食に食事とぶどう酒を与え、オディッセイウスや彼の妻に言い寄る求婚者たちが彼の財産を食い潰している話をする。乞食は自分の正体を明かさず、オディッセイウスが年内に帰国すると語るが、エウマイオスは信用しない。その夜、エウマイオスはオディッセイウスを自分の小屋に泊め、自分は家畜小屋に寝る。
- 第15巻 スバルテのケダイモンにネストルの息子と留まっていたテレマコスのもとにアテネが現れ、求婚者たちが財産を食い潰し、母ペロネイアに母の父や兄弟が求婚者の中の有力者エウリュマコスに嫁ぐように迫っているので、早く帰国するよう促す。テレマコスはスバルテを発ち、ピュロスから船に乗ってイタケに向かう。乗船に際し、同族を殺し放浪する預言者テオグリュニメスを同乗させる。途中、テレマコスを殺害せんと海で待ち伏せする求婚者一味からすり抜け、テレマコスはイタケに上陸。豚飼を訪ねて農場に向かう。
- 第16巻 テレマコスを見て豚飼のエウマイオスは喜び、ペネロペイアに報告すべく屋敷に出発する。乞食姿のオディッセイウスと息子テレマコスの2人きりになると、アテネはオディッセイウスをもとの姿に戻し、父親であることを名乗らせ、求婚者たちを討伐する計画を立てさせる。屋敷では求婚者たちがテレマコスを殺害する計画を立てており、それを知ったペネロペイアは求婚者たちの前に出て、彼らを批難する。エウマイオスはペネロペイアにテレマコスが帰国したことを報告した後、小屋に帰り、テレマコスに従う。しかし乞食がオディッセイウスであることは知らされない。
- 第17巻 テレマコスは屋敷に行き、母と再会する。オディッセイウスの消息を訊ねる母に、テレマコスはメラネオスから聞いた”カリュプソに引き留められ帰国できない”までに留めて話すが、テオクリュメノスはオディッセイウスは既に帰国しており、求婚者たちを討伐する日も近いと予言する。オディッセイウスも乞食の姿で町に入る。屋敷の入口で愛犬アルゴスに会うが、犬はまもなく死ぬ。オディッセイウスは屋敷で求婚者たちに物乞いをして廻り、屈辱的な扱いを受け、それに耐える。ペネロペイアは乞食を呼んでオディッセイウスの消息を訊ねようとする。
- 第18巻 イタケの公認の乞食イロスが来て、新米の乞食を追い出そうとする。求婚者たちは賞品を出して、2人を競わせるが、オディッセイウスは一撃でイロスを倒す。ペネロペイアはアテネの計略に従って、求婚者たちの前に現れ、”求婚する者は贈り物を持ってくるのが通例”と言って贈り物を要求する。オディッセイウスは求婚者の1人工リュマコスと情を通じている召使メラントから罵られる。オディッセイウスはこの召使を叱る。その後エウリュマコスと口論になり、エウリュマコスから椅子を投げつけられるが、これをかわす。テレマコスが一同をなだめ、求婚者たちは屋敷を出て行く。
- 第19巻 オディッセイウスはテレマコスと2人になると、広間にあった武器を倉庫に隠す。乞食姿のオディッセイウスがペロネペイアと対面。ペネロペイアが乞食の素性を聞くがオディッセイウスは聞かないで欲しいと要請。ペネロペオアは夫が出征してから今日までの苦労を語り、”息子も成人したので、家財を守るには結婚するしかない”と語る。乞食のオディッセイウスは夫は間もなく帰るだろうと言う。ペネロペイアは乞食を客人として湯浴みや寝床の用意をさせる。オディッセイウスの乳母だった老女エウリュクレイアが客人の足を洗おうとした時、この乞食がオディッセイウスであることに気付く。オディッセイウスは口止めをする。ペネロペイアは新しい夫を選ぶため競技を催すことを明かす。

- 第20巻 オディッセイウスは求婚者たちをどのように誅伐しようかと考えて疲れぬ夜を過ごすが、アテネが現れ“如何なる危難があっても守ってやる”と言って、オディッセイウスを眠らせる。
- テレマコスは求婚者たちが集まる広間の中にオディッセイウスに椅子とテーブルを与える。求婚者たちは反発するが、テレマコスは今までに無く強く対応する。求婚者たちは宴会に酔いしれ、テレクリュメノスは求婚者たちの最後が近いことを予言。
- 第21巻 ペネロペイアはオディッセイウスが使っていた弓で、オディッセイウスがしていたように12の斧を射通した人に嫁ぐといって弓の競技を始める。求婚者たちは代わる替わる挑戦するも失敗。オディッセイウスは、豚飼のエウマイオスと同じく忠実な下僕牛飼のピロイティオスに正体を明かし、求婚者たちが弓を渡さない時は取って来て渡すよう指示。自ら弓を引いて12の斧を射通す。
- 第22巻 オディッセイウスは弓で求婚者たちの有力者であるアンティノオス、エウリュマコスを倒した後、アテネの援護を受けて、求婚者や不忠の者たちを処刑する。オディッセイウスはペネロペイアが寝ている部屋から出てこないうちに死体を片付け、清掃する。
- 第23巻 ペネロペイアは乳母エウリュクレイアに起こされ、乞食を装ったオディッセイウスが求婚者たちを討伐したことを聞かされ対面するが、夫であることを中々信用しない。しかし、オディッセイウスが2人しか知らない、寝台の造りの特徴に触れたことから、客人が夫オディッセイウスであることに納得する。
- オディッセイウスは漂流中の出来事を妻に語る。翌朝、オディッセイウスはテレマコスと豚飼、牛飼の2人の下僕を連れて、田舎に住む父親のところに行く。
- 第24巻 老父ラエルテは老いた下僕と果樹園を営んでいる。訊ねていったオディッセイウスは、始めは他人を装って話しかけ、その後 正体を明かして親子の対面を果たす。
- 討伐された求婚者たちの親兄弟は仇を討とうとするが、アテネの仲裁で和解する。